

# ひらがな読み習得のための段階指導

— 教材・教具の活用を通して —

## 目 次

I	テーマ設定の理由	45
II	研究仮説	45
III	指導内容	46
1.	文字指導以前の指導内容	46
(1)	音の認識	46
(2)	音節分解と言葉の聞き分け	46
(3)	音節抽出	46
(4)	実物・絵・文字の認識	47
(5)	線の認識	47
(6)	形の認識	47
(7)	カード遊び	48
2.	文字の発達段階	49
3.	文字の読みの難易	51
4.	年間計画	52
IV	授業実践	53
1.	単元	53
2.	単元目標	53
3.	単元設定の理由	53
4.	児童の実態	54
5.	指導計画	56
6.	本時の学習展開	57
(1)	目標	57
(2)	仮説	57
(3)	展開	58
7.	実践の結果と考察	60
(1)	全体活動から	60
(2)	個々の活動から	60
(3)	評価及び反省	60
8.	授業風景	61
V	まとめと今後の課題	62
1.	研究のまとめ	62
2.	研究の成果	62
3.	今後の課題	62
4.	終わりに	62

浦添市立仲西小学校教諭

金 嶺 邦 子

# ひらがな読み習得のための段階指導

— 教材・教具の活用を通して —

浦添市立仲西小学校教諭 金 嶺 邦 子

## I. テーマ設定の理由

「教育は子どもの幸福性を追求するものである。幸福性は『能力の発揮』×『好意的な人間関係』で図られるものである」と加藤氏は言う。ならば能力の開発を図り、好ましい人間関係の条件を備えてやるのが私達教育者に携わる者の使命であろう。教育は子どもの能力、適性によってなされるものである。民主教育では、誰もが皆幸福になる権利を有し例外を認めてはならない。本校のひまわり学級の7人の児童も（自閉的傾向3、重複傷害1、精薄3）皆一人の人間として幸福になる権利を有している。この権利がより堅実に保っていける力を育てあげることが特殊教育であるという立場でこれまで指導にあたってきた。

指導にあたっては、ビッキィM、ジョンソン共著の「発達の遅れたこどものステップ指導」をベースにして、いろいろな実践や方法を試みた。成長発達の最も基本となる手、足の養訓的な運動や情緒の安定を促す抱っこ療法・言葉の誘因を図る遊戯療法や読書療法等を取り入れて、7人の児童が個々の特性を活かしながら、互いに影響し合う学級経営を営んだ。しかし、教師に求められる指導技術の面で「一人一人の能力を開発する」と言う観点で指導の取り組みの弱さを感じ不安を抱いた。どの子も伸びたいという意欲を体で表現する。例えば授業中に分からなくなって退屈した時に素直にすぐパニックを起こしたり、他のものを求めて動き回ったり、友達にちょっかいを出したり、抱きついたりして精一杯の構って信号を送っている。その内なる欲求を学習指導の中で応えてやり、個々の能力を高めていく指導技術を身につけることが今後の課題である。

今までの授業は、生活単元を中心に同じ単元を異質学習することで、7人の障害の多様性に対応してきた。教科の学習においても同様な対応をしたが、指導計画や指導教材の検討が不十分だった。そこで今回は、自閉的傾向で指示に従えない多動なA児。注意散漫で短時間しか集中できず、最後まで課題をやりとげることの困難な知恵遅れのB児。右半身まひで落ち着きがなく、じっと席に座ってられず、室内を動き回る知恵遅れのD児の3人にスポットをしばり、適切な指導援助のあり方を究明することを目指して研究を進めていきたいと考え、本テーマを設定した。

## II. 研究仮説

1. 発達段階に応じた指導内容を研究し、教材・教具の活用を工夫すれば、文字に対する親しみを持たすことができるであろう。
2. 年間計画を作成する中で系統的に指導内容を設定し、教材・教具の与え方を継続的に工夫することで文字に対する興味・関心が育つであろう。

### Ⅲ 指導内容

#### 1. 文字指導以前の指導内容

##### (1) 音の認識

言葉は、音という記号で表される。その音を目で見える記号で表した物が文字である。だから、仮名文字で言葉を表すためには、音を正確に聞き取る力と再生する力が必要である。話すことは、注がれた水がいっぱいになって初めてあふれ出すように、音の認識が十分になって初めてできるといわれる。話す力がついていないということは、音の聞き分けが、まだ十分でないからだと考えられる。

音の認識に関する指導には、次のようなものがある。

A. 歌あそび（かごめかごめ・頭肩ひざボン・お寺の和尚さん）

B. 音あて

(ア) 何の鳴き声（山羊・ぶた・せみ・いぬ・猫など）

(イ) だれの声（わたしは誰でしょう ブーブー）

(ウ) 何の音（かんかん・積木・ビー玉・オルガン・トライアングルなど）

(エ) どっちから聞こえる

(オ) 大きい音・小さい音

(カ) 近くの音・遠くの音

(キ) 高い音・低い音

##### (2) 音節分解と言葉の聞き分け

言葉は、音の集まりである。似通った音の集まりでも、言葉としては全く違うものを意味する場合がある。音あてから更に進んで、細やかな聞き分けの指導段階にはいる。文字を書くためには、言葉を音節に分解することができなければならない。

その指導には次のようなものがある。

(ア) 自分のなまえの認識

(イ) 友達のなまえ

(ウ) 指示と行動（「これを塵箱に入れて」といって行動させる）

(エ) 単語の聞き分け（似通った言葉の聞き分け・はなとあな・足と箸・酒とたけなど）

(オ) 二音節の分解（ぶた・はな・かお・くち・うで・くつなど）

(カ) 三音節の分解（ばなな・うさぎ・たいこ・ひよこ・あひる・あたまなど）

(キ) 一音節の分解（て・き・ひ・め・戸など）

##### (3) 音節抽出

音節の抽出をすることは、文字の一般化にとって重要な過程である（「か」は「かめ」の「か」ではなく、「かめ」の「か」でもあり、「からす」の「か」でもあることを認識させる）。

A. 二音節の単語（うし・うまの「う」）

B. 三音節の単語（しか・おかし・あしかの「し」 あたま・あしか・こあらの「あ」）

(4) 実物・絵・文字の認識

読みの元になる線や形の認識（実物と実物のマッチング・文字と図形のマッチング・大きさ・長さ・上下左右の位置関係の認識など）

A. 実物と実物の認識

- (ア) みかんとボール（二種類の具体物を置いて、同じ種類毎に仲間集めをさせる）
- (イ) カードの分類（二つの違ったカードを一緒にくっつけて種類分けをさせる）
- (ウ) びんと蓋
- (エ) 牛乳瓶と牛乳箱
- (オ) 身ぶり
- (カ) なぐり書き

B. 絵と実物のマッチング

C. 絵と絵

- (ア) 具体的な絵（絵合わせや分類をさせる）
- (イ) 単純な絵（単純な線を使っての絵合わせや分類）
- (ウ) 絵の完成（未完成の絵を完成させる）

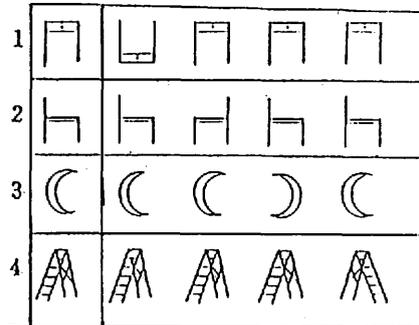
(5) 線の認識

- (ア) 線や棒の長い、短い、同じなどの見分け
- (イ) 高い、低いの見分け

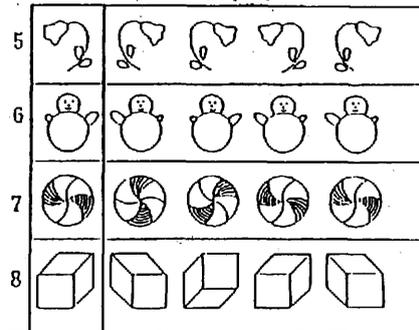
(6) 形の認識

- (ア) 形はめ
- (イ) 同じ形を集める
- (ウ) 同じ形を塗る
- (エ) 図形の大小の見分け
- (オ) 図形の違いの見分け
- (カ) 図形の向きの見分け
- (キ) 物の位置の見分け
- (ク) 図形の並び方の規則を見分ける
- (ケ) 角度の大小の見分け
- (コ) 図形の上下左右の見分け
- (サ) 手本を見ての書き写し

(カ)



(キ)



(7) カード遊び

A. 身体の部分の名前当てゲーム

「これは何の絵ですか」足です。「あなたの足を見せて下さい」と発展させる。

「これは何の絵ですか」頭です。「Sこちゃんの頭はどこにありますか」と指差しをさせる。

B. 名前当てゲーム

「このカードの絵は何ですか」を1枚1枚取って言わせる。

C. 選択ゲーム（絵と対象物を認知させる）

何枚かの絵カードを並べ、「花の絵はどれですか」と指差しをさせる。

D. ○○の中に入れる遊び

「りんごの絵はどれですか」「りんごの絵を○○の中に入れなさい」

E. なくなった絵カード

5枚の絵カードを並べる。

1枚ぬき取って、何の絵だったか言わせる。（できたら2枚・3枚と増やす）

F. 「はい」・「いいえ」の訓練ゲーム

肯定・否定を学習する受動語・表現語の遊び

カードの絵と違う発問をして「はい」「いいえ」で返事をさせる。

G. バントマイム（動作と想像力を含む表現語のワーク）

動作語のカードを2～3枚用意する。その中の1枚の絵を動作させる。又、指導者が動作化して、どの絵なのかをあてさせる。

H. 動きの遊び

転ぶ、揺れる、切る等の絵カードを準備する。（例 ボール・はさみ・ゆりかご等）

「転がるものは何でしょう」「切るものは何でしょう」

I. カード回し

輪になって、音楽に合わせてカードを回し、音楽が止まったとき持っているカードを見て、

「私は00のカードを持っています」と言い合って遊ぶ。

J. どこに入れますか遊び

手押し車と工具箱の絵を見せて「大きいものは手押し車に、小さいものは工具箱に入れましょう」と言って判断させながら入れさせる。

K. 機能のゲーム

行動のカテゴリー2枚のカードを使って「○○をしている絵はどれですか」「よくできました。今度は体の部分の絵はどれですか」

カテゴリーの違う2枚の道具の絵カードを使って「○○をする時に使うものはどれですか」

L. 分類ゲーム

果物は果物の絵カード・野菜は野菜の絵カードに分けなさい。

M. 場所に合った行動カードを選ぶ

## 2. 文字の発達段階

文字の読みの発達段階について調べてみた。国立国語教育研究所のデータによると次の表のようになっている。

段階 No	読みの段階	特 徴	読みの可能 なおよその 文字数
0	文字の代表 機能不明の 段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字は、話し言葉と対象を表す（代表する）記号であるが、そのこと自体が理解できない段階。</li> <li>この段階の子供にあっては、話し言葉は対象に付した単なる符号ではなく、それ自体、他に置き換えることのできない一つの実体として認識されている。従って、文字は、話し言葉とは無関係の単なる図形にすぎない。</li> <li>文字に全く興味を示さない段階。</li> </ul>	0
1	文字機能認 識の段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>漠然と、文字の代表機能に気づく段階。文字が対象や言葉、あるいは、お話を表していることを読む真似をしたり、でたらめである。</li> <li>時に、特定の文字を新聞等の中に見出して喜ぶ。</li> <li>文字に興味を示し始める。</li> </ul>	平仮名 1～2個
2	語文字未分 化読みの段 階	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の単語として文字を読むことができる。ただし、個々の文字を分離して読むことが困難である。例えば、自分の名前がわかる。しかし、その名前に含まれる文字の組み合わせによる別の語を読むことができない。 特定の文字は、特定の文字と一体、未分化の読みの段階</li> <li>この段階の終わりは、仮名文字が全く読めないか、ある程度読めるかの境目になる。</li> </ul>	平仮名清音 10～20個
3	音節読みの 段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の文字を音節として単独で読める。例えば「とけい」の「と」は、「けいと」の「と」であり「とんぼ」の「と」でもあることがわかる。</li> <li>実質的な読みの始まりの段階。</li> </ul>	平仮名清音 30～40個

段階 No	読みの段階	特 徴	読みの可能 なおよその 文字数
4	語構成読み の段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 音節として個々の文字を読み、そこから語を構成して認識できる。</li> <li>◦ 盛んに文字を読み、それを楽しむ。</li> <li>◦ 書きにも興味を示し始める。</li> </ul>	平仮名清音 および若干 の濁音、半 濁音
5	文拾い読み の段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 発声をしながら文字を拾い読みすることによって、簡単な文を読むことが出来る。</li> <li>◦ 個々の文字の読みは完成し、特殊音節の読みの習熟が進行</li> </ul>	促音、撥音 長音等の特 殊音節「は」 「へ」等の 読み
6	文読みの段 階	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 語が読みの単位となり、スムーズに文が読める。</li> <li>◦ 特殊音節を含め、平仮名の読みは完成し、他に片仮名や漢字が読める。</li> <li>◦ 声読が優位</li> </ul>	拗音節、片 仮名、若干 の漢字
7	黙読の段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 句や文の言い回しが読みの単位となる。</li> <li>◦ 黙読の方が声読より速くなる。</li> <li>◦ いわゆる成人の読みの段階。</li> </ul>	多くの漢字
8	速読の段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 一部の文字や語や文が手掛かりとなって、読みの理解が成り立つ段階。目は必ずしも個々の文字をたどらない。</li> </ul>	

### 3. 文字の読みの難易

ある文字は読みやすく、他の文字は難しい。文字の読みには難易差がみられる。難易差には又、個人差もある。たとえば、ある子どもは「ま」は読めるが「さ」が読めない、別の子どもはその逆である、というふうに。しかし、文字全体を大勢の子どもに付いて調べてみると、文字読みの難易には、一つの一貫した傾向がみられる。そのことを示したのが次の表である。

(国立国語研究所の調査より)

難易の段階	文 字	正しく読めている割合 (読字率) 全体
1	か、み、の、し、い、ひ、お、も、こ、う、 あ、た、す、ま	75 ~ 81 %
2	き、と、り、く、つ、ん、よ、え、ゆ、や、 る、て	70 ~ 75 % 70 ~ 75 %
3	な、け、さ、せ、ら、ち、に、ふ、ろ、が、 め、わ	65 ~ 70 %
4	は、む、ど、じ、ず、だ、ご、そ、れ、ね、 で、へ	60 ~ 65 %
5	ぎ、げ、ぐ、を、ば、づ	55 ~ 60 %
6	ぜ、ぶ、ほ、ぎ、び、ぞ	50 ~ 55 %
7	べ、ぬ、び、ち、ぼ	45 ~ 50 %
8	ぶ、ぼ、べ、ば	45 % 以下

以上のことから、平仮名文字の読みの難易のある理由として、形態上の問題—(1) 文字を構成する要素の多少、(2) 類似した形態(ね、わなど)等の有無—と文字に接する頻度の多少が考えられた。このようなことを考慮すれば、指導の初期に用いられる文字は、接することの多い事物の名称に使用される文字や、構成する要素数の少ない簡単な文字から導入することによって、学習への意欲を高めるように配慮したり、同じ文字でも場面に応じて種類の教材を用いて、繰り返し呈示しながら反応を導くことが大切であろう。



4. 年間計画

月	単元・題材名	学 習 活 動	学 習 内 容	教 材 教 具
4	A	・釣り糸にビーズを通しをする。 ・10ビーズ〜20ビーズのパスル遊びをする。	・じっと見て 集中して作業をする。	ビーズと釣り糸 パスル
	B	・挨拶・返事・物の名前 ・朝夕のあいさつ、授業の前後のあいさつをする。 ・身近な具体物の物の名前を言う。	・簡単な挨拶ができる。 ・身近な具体物の名前を知る。	文字カード 黒板・机等
	C	・経験したことを簡単な日記に書いたり、複写したりする。 ・新しい教科書から好きな文章の部分を朗読する。	・平仮名を使って簡単な文を書く、文をよく見て写す。 ・句読点に気をつけて読む。	日記帳・国文 教科書
5	A	・粘土をちぎったり、丸めたり、細く伸ばしたりする。 ・模木遊びをする。	・粘土や模木に興味を持ち集中して作業したり遊んだりする。	粘土や粘土板 模木
	B	・友達・物の名前 ・友達や先生、身近な物の名前を読む。 ・3音節〜4音節の分解をする。	・3文字〜4文字の平仮名を読む。 ・音節を分解し文字の組合せをする。	文字カード 黒音カード
	C	・何をしていますか ・動作や状態を言葉かする。 ・主語・述語を使い説明に気をつけて話したり書いたりする。	・絵を見て「～が～しています」と話したり動作かしたり書いたりする。	動作後や状態語の 絵カード
6	A	・ボールペンの組み 外しをする。 自己紹介 ・ボールペンの組み外しをする。 ・学年・組・氏名を紹介する。	・好奇心をもって作業をする。 ・宿泊学習に向けて自己紹介に慣れる。	ボールペン
	B	・なぞり書き 自己紹介 ・自分の名前や曲線等のなぞり書きをする。 ・自分の学校・学年・氏名を紹介する。	・文字や線をよく見てなぞる。 ・宿泊学習に向けて簡単な自己紹介ができる。	点線の文字カー ド
	C	・はがき文を書く 自己紹介 ・はがき文を書く。 ・自分の学校・学年・氏名・得意とするものを紹介する。	・宿泊学習先から簡単な便り文を書く。 ・宿泊学習に向けて自己紹介ができる。	はがき
7	A	・ひも通し 文字探し 絵本遊び ・穴の空いた紙に紐を通して遊ぶ。 ・いくつかの文字の中から同じ文字を探して入れて遊ぶ。 ・絵本を読みだしたり読み聞かせを聞いたりする。	・紐を巻いたり×に穴通ししたりする。 ・自分の名前の文字に興味関心を持つ。 ・興味を持って絵本を見る。	紐と紐通し板 数珠の名前カ ード・絵本
	B	・劇遊び「とっちく んのカレーようび ・物語の読み聞かせを聞いたり、絵を読みだしたりする。 ・場面に応じたセリフを言ったり、動作かしたりする。	・絵本に親しみをもって聞いたり絵を見たりする。 ・楽しい場面のセリフを言ったり動作かしたりする。	絵本 絵本
	C	・劇遊び「とっちく んのカレーようび ・物語を大きな声で読みだしたり、大筋を理解したりする。 ・場面に応じたセリフを言ったり、動作かしたりする。	・句読点に気をつけて読む。面白い部分を複写する。 ・大筋を理解しセリフを言ったり動作かしたりする。	絵本
9	A	・文字探し ペグボード遊び ・塗り絵の中の同じ文字を探して色塗り遊びをする。 ・ペグボードで変化をつけながらペグさしをして遊ぶ。	・自分の名前の文字に関心を持つ。 ・指示に従いながらペグさしをする。	黒色預しの塗り 絵・ペグボード
	B	・なぞり書き 音節遊び ・曲線・簡単な線のなぞり書きをする。 ・音節抽出のワークをする。	・絵や曲線の線に注意してなぞる。 ・自分の好きな母親の名前の文字をなぞる。	点線の線のシー ト・文字カード
	C	・漢字集め ・知っている漢字を使って文を書く。	・主語・述語の短い文を知っている漢字を使って書く。	□が□するのシ ート
10	A	・劇遊び「大きなか ぶ」 ・物語の読み聞かせを聞いたり絵を読みだしたりする。 ・場面に応じたセリフを言ったり、動作かしたりする。	・物語の読み聞かせをじっと聞く。 ・「」の部分の言葉や言ったり動作かしたりする。	教科書・絵 大きな作った紙 の模型
	B	・劇遊び「大きなか ぶ」 ・物語の読み聞かせを聞いたり、絵を読みだしたりする。 ・場面に応じたセリフを言ったり、動作かしたりする。	・物語に興味をもって聞く。	
	C	・劇遊び「大きなか ぶ」 ・物語を大きな声で読みだしたり、書いたり、大筋を理解したりする。 ・場面に応じたセリフを言ったり、動作かしたりする。	・あら話を捉えながら読みだしたり書いたりする。 ・自分の役になりきって言ったり動作かしたりする。	
11	A	・文字遊び 読明文を聞く ・文字の中の黒音探しと同じ文字あわせをする。音節抽出をする。 ・読み聞かせを聞く。	・身近な物の名前や名前の文字に関心を持つ。 ・注意して聞く。	身近な物の実物 (野菜など) 読明文のプリン ト
	B	・文字遊び 読明文を聞く ・文字と絵のマッピング遊びをする。黒音の挿入をする。 ・読明文をじっと聞く。	・4文字の文に興味をもって読む。 ・注意して聞く。	4文字のカード 黒音カード ワークシート
	C	・漢字集め 読明文を読む ・漢字集めから分る漢字を選んで書く。 ・読明文を読んで要点をとらえ、ワークシートにかく。	・漢字に興味を持つ。 ・平仮名漢字混じりの文の意味が分かるように読む。	
12	A	・文字遊び 形の認識遊び ・黒音カード、黒音文字の文字探しをする。文字のペグ差しをする。 ・図形の上下左右、角度の大小の見分けをする。	・平仮名に関心を持つ。 ・注意して見分ける。	文字のペグ板 図形のワークシ ート
	B	・文字遊び 年賀状 かるた取り ・文字と絵のマッピングをする。 ・年賀状の文をなぞって書きポストに入れる。 ・読むのしりとりについて物事と言葉との結びつきがわかる。	・4語文を読む。 ・はがき文に関心を持つ。 ・注意して聞いてかるた取りをする。	絵カードと文字カ ード・はがき かるた
	C	・年賀状 かるた作り ・友達や知人に年賀状を書きポストに入れる。 ・かるた作りをする。	・はがき文を短く書く。 ・身の回りのことを文に書く。	はがき かるた用の厚紙
1	A	・文字遊び 絵本を読む ・絵題・語尾・語中の中から黒音探しをする。50音遊びをする。 ・絵本の読み聞かせを聞いたり、絵を読みだしたりする。	・平仮名に興味を持つ。 ・絵本に親しみをもって聞く。	ワークシート・ 50音パスル・ 絵本
	B	・なぞり書き 絵本を読む ・自分の母親の名前を返り読みして書く。 ・4〜5文字の文を読む。	・自分の母親の名前を書く。 ・4〜5語文を書く。	なぞり書き用の ワークシート
	C	・漢字集め ・漢字の使い方を調べ、漢字漢じり文を書く。	・「～が～をしました」の文を漢字を使って書く。	ワークシート
2	A	・文字遊び 学習発表会の準備 をする。 ・語頭・語尾・語中の中から黒音探しをする。50音パスルで 楽しく学習発表会の劇の練習をする。	・平仮名に興味関心を持つ。 ・自分の出番が分かるようにする。	ワークシート 50音パスル・
	B	・ことば遊び 学習発表会の準備 をする ・4〜5文字の文を読む ・自分の出番が分かり簡単なセリフの練習をする。	・4〜5文字の文が読める。 ・自分の出番のセリフを言う。	4〜5語文のカ ード
	C	・劇遊び ・物語を読み大きな声で分かる。 ・自分の出番を覚え大きな声でセリフを言う練習をする。	・物語の大筋を理解しながら読む。 ・自分の出番のセリフを覚えて読む。	シナリオ
3	A	・文字遊び ・語頭・語尾・語中の中から黒音探しをする。	・平仮名文字に興味関心を持つ。50音パスルをする。	50音パスル ワークシート
	B	・なぞり書き ・平仮名のなぞり書きをする。	・自分の父親の名前をなぞる。	ワークシート
	C	・文集作り ・文集に載せる作文を選び書き写す。 ・文集の表紙を各自で作る。	・きれいな字で作文を書き写す。 ・楽しい表紙を書く。	作文用紙・表紙 用紙・鉛の具

## IV 授業実践例

### 国語科学習指導案

日時 平成3年12月2日(月) 4校時

12月4日(水) 4校時

学級 ひまわり学級(男5人, 女1人, 計7人)

#### 1. 単元 「どんなところをたべますか」

#### 2. 単元目標

- (1) 野菜の名前が, 言えるようにする。
- (2) 野菜の名前と, 絵のマッチングができるようにする。
- (3) 単音さがし, 単音と単音, 文と絵のマッチングする事で文字に興味・関心を持つようにする。
- (4) 野菜の作りを知り, どんなところを食べているのか読み取るようにする。
- (5) 果物や花等にも興味をもつようにする。
- (6) 説明文を書くようにする。
- (7) 絵本や図鑑に興味を持つようにする。

#### 3. 単元設定の理由

##### (1) 単元について

子どもたちに, 野菜についてどの位関心があるか問いかけたことがある。「知っている野菜の名前を言ってごらん」と言う問いに対し, 「りんご」とか「なす」「みかん」等とこたえた。「野菜って花が咲くの」との問いに対し, 「咲かないよ」で「野菜って実ができるの」の問いに対し, 「実ができるのは果物だよ」との対応であった野菜の種類と果物の種類とがいりまざった子どもたちである。野菜や果物については何度も指導したが, 名前を覚えるだけで精一杯の子どもたちには, 種類なんてどうでもいいのである。

こういう子どもたちが, 日頃食べてる野菜の名前を覚え, 野菜の作りや食べているところに興味を持ち, 身の回りのものに目が注がれていくことを願い, 本単元を設定した。

##### (2) 教材について

この教材は, 問題提示文と答えの文がはっきりわかる構成になっているので, E, F, Gの子どもたちに今後説明文学習していく上からも, こうした構成に目を向けさせ意識化させたい。又, A, B, Dの子どもたちには文を読み取る作業の中で言葉を増やし, 文や文字に興味を持たせ, 野菜の種類や野菜のどんなところを食べるのかについても関心を持たせたい。

写真と照応しながら一段落, 一文ずつ進めていく。一文ごとに始めて知ったこと, 知っていたこと, もっと知りたいこと等を自由に話し合いながら読ませたい。

言葉や文については, 次のことを注意して指導したい。「どんなところを食べているのでしょうか」「なんまいも, なんまいも」「かさねあわせて」「……しているのは……しているところです」「……なども……です」「やがて……です」「……ではなく……が」「はわせて」「いちぶ」

4. 児童の実態

氏名	学年	諸検査	主な障害名	実 態	目 当	配慮事項
A 男	1	語彙年 令 4:0	自閉的傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦多動で席に着くことが、なかなか出来ない。</li> <li>◦内言語はあるが、表現語彙が少ない。</li> <li>◦独り言が多い。</li> <li>◦他人との対応が殆ど出来ない。</li> <li>◦文字に関心がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦野菜の名前をより多く言える。</li> <li>◦文字に関心を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦絵と絵、文字と文字のマッチングをさせる。</li> </ul>
B 男	1	語彙年 令 4:2	精神薄弱	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦生活力があり、説明を聞いての学習は出来ないが他の行動を見て模倣することが出来る。</li> <li>◦表出言語は多いが、理解言語が少なく逐一質問する。</li> <li>◦文字に関心がない。</li> <li>◦自分の名前は単語文字として読める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦文字に関心を持つ。</li> <li>◦野菜の名前をより多く言える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦文字と文字、絵と絵のマッチングをさせる。</li> </ul>
D 男	3	語彙年 令7歳 以上	自閉的傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦3年生程度の文が読めるが意味理解は困難。</li> <li>◦漢字の形を真似て書ける。筆順はいい加減。</li> <li>◦伝達表現は未熟だが、簡単な会話はできる。一方的な時が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦文を読んで意味が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦文を読ませて意味理解を図る。(ワークで)</li> <li>◦大根、花、実咲くの漢字を正しく書けるようにする。</li> </ul>
D 男	4	語彙年 令 6:0	身体傷害	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦右手右足まひの身体障害がある。</li> <li>◦表現できる意思伝達がない。</li> <li>◦50音は読めるが、文とし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦4語文の読みができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦野菜の名前と絵のマッチングができるようにする。</li> </ul>

氏名	学年	諸検査	主な障害名	実 態	目 当	配慮事項
				<p>ては、3 語文までしか読めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文字は自分の名前が、ようやく書ける程度。</li> </ul>		
E 男	6	Wisc -R 45	精神薄弱	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 年生程度の文が読めるが、意味理解は困難。</li> <li>2 年生程度の漢字が書ける。</li> <li>会話は普通にできるが、集団の中で教師の話すことが十分に理解できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文を読んで意味が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文を読んで意味が分かるようにワークを利用する。</li> <li>漢字の筆順指導をする。</li> </ul>
F 女	6	Wisc -R 68	自閉的傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンガが好きで、よく読んでいる。</li> <li>普通の会話の中でもマンガの話が出たり、空想の中での話が出たりする。</li> <li>自己中心的な行動が多い。</li> <li>3・4 年生程度の文が読める。意味理解は1・2 年生程度である。</li> <li>漢字は読めるが、書くことは殆どやらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文を読んで意味が分かる。</li> <li>漢字に興味をもって書くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークを利用して文の意味が分かるようにする。</li> <li>漢字の筆順指導をする。</li> </ul>
G 女	6	語彙年 令 5 : 3	精神遅滞	<ul style="list-style-type: none"> <li>表出語彙が少なく、普通に会話が出来ない。</li> <li>言語環境が貧弱である。</li> <li>一文読みが出来ない。</li> <li>絵本に興味を持つようになっている。</li> <li>5 年の2 学期まで常欠児であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意味が分かるように文をスラスラ読める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークを利用して意味が分かるように手だてをする。</li> </ul>

5. 指導計画

展開	時	目 的	学 習 内 容
第 1 次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>八百屋には、いろいろな野菜があることを知る。</li> <li>野菜のどんなところを食べているのか問いかけられていることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半具体物や絵を利用して、いろいろな野菜の名前を言い合う。</li> <li>好きな野菜の名前を言う。</li> <li>一段落を読む。</li> <li>問いかけの文について知る。</li> </ul>
	2・3 両方実践する	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真と照応しながら読み、はくさいの作りを知り、食べているのは葉であることを読み取る。</li> <li>葉を食べる野菜の種類について調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真を見て何の野菜であるか、どんな特徴をしているかについて話し合う。</li> <li>二段落を読む。</li> <li>野菜の名前と絵のマッチングをする。</li> <li>文字と文字のマッチングをする。</li> <li>葉を食べる野菜について調べる。</li> <li>シートに二段落を視写する。</li> <li>重要語句をおさえる。</li> </ul>
	4・5	<ul style="list-style-type: none"> <li>なすのどんな所を食べているのか調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三段落を読む。</li> <li>範読を聞く。</li> <li>野菜の名前と絵のマッチングをする。</li> <li>文字と文字とのマッチングをする。</li> <li>写真を見て何の野菜であるか、どんな特徴をしているかについて調べる。</li> <li>シートに三段落を視写する。</li> <li>重要語句をおさえる。</li> </ul>
	6・7	<ul style="list-style-type: none"> <li>実を食べる野菜の種類について調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真を見て何の野菜であるか、どんな特徴をしているかについて調べる。</li> <li>範読を聞く。</li> <li>四段落を読む。</li> <li>野菜の名前と絵のマッチングをする。</li> <li>文字と文字とのマッチングをする。</li> <li>シートに四段落を視写する。</li> <li>重要語句をおさえる。</li> </ul>

展開	時	目 的	学 習 内 容
	8 ・ 9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 全文を通読する。</li> <li>◦ 他の野菜についても興味を持って調べたり、発表したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 葉を食べる野菜、実を食べる野菜、根を食べる野菜について調べる。</li> <li>◦ 絵を見て調べて発表する。</li> <li>◦ 野菜の名前と絵をマッチングをする。</li> <li>◦ 文字と文字とのマッチングをする。</li> <li>◦ シートに書く。</li> <li>◦ 図鑑や絵本でも調べる。</li> </ul>
第 2 次	11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 新出漢字や語句の学習を通して、用法を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 漢字や文字を書く学習をする。</li> <li>◦ 文字をなぞって書く。</li> <li>◦ シートを利用して語句や漢字の用法を理解する。</li> <li>◦ 説明文を書く。</li> </ul>

## 6. 本時の学習展開

### (1) 目標

- 二段落から、はくさいの作りを知り、どんなところを食べているのか、葉を食べる野菜にはどんな種類があるかを読み取る。
- 文や文字に関心を持つ。

### (2) 仮説

- 実物の野菜や絵を準備し、照応しながら文を読みますことで、より読解がスムーズになることでしょう。
- 単語カードと絵カード、単音カードと単語カードを準備しマッチングさせたり、読ませたり、範読したりすることで、文や文字に興味・関心を示すことでしょう。

(3) 展開 1

流れ	学習				内 容		教材・教具・教師の配意
	時間	学習活動	習 動	C E F G	D	A B	
導入	5	<p>歌やゲームをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ひげいさん」のゲームをする。</li> <li>「やおやさん」の歌をうたう。</li> <li>目当てについて話し合う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>皆と一緒楽しくゲームしながら気分を高める。</li> <li>指名されたらすかさず「続き」を歌う。</li> <li>持っているカードの野菜の名前を言う。</li> <li>文をすらすら読もう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ははやき過ぎないようになしながら、皆と一緒に楽しく遊ぼう。</li> <li>自分に指定された時だけ「続き」をうたう。</li> <li>もっているカードの名前だけ言うよう。</li> <li>単語文をよんで絵とマッチングしよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>席についてじっと見る。</li> <li>「はくさい」と正しく発音しながら名前を言う。</li> <li>「ここはなんですか」と正しく発音しながら名前を言う。</li> <li>「菜」とあることを知る。</li> <li>「菜」が多いことに気付く。</li> <li>「こまつな」「ほうれんそう」と正しい発音で言いながら野菜の胸心を持つ。</li> <li>「菜」であることを予想する。</li> <li>「はくさい」「こまつな」「ほうれんそう」等の単語文を読む。</li> <li>意味が分かるように読む。</li> <li>食べているのは「菜」であることを確認し読み取る。</li> <li>文を目で追いながら聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵を見ながら「はくさい」「こまつな」「ほうれんそう」と正しく発音しながら名前を言う。</li> <li>「ここはなんですか」と正しく発音しながら名前を言う。</li> <li>「菜」とあることを知る。</li> <li>「菜」が多いことに気付く。</li> <li>「こまつな」「ほうれんそう」と正しい発音で言いながら野菜の胸心を持つ。</li> <li>「菜」であることを予想する。</li> <li>「はくさい」「こまつな」「ほうれんそう」等の単語文を読む。</li> <li>意味が分かるように読む。</li> <li>食べているのは「菜」であることを確認し読み取る。</li> <li>文を目で追いながら聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の絵を配りながらカードを配る。</li> <li>目当てをさしかり持たすように個々に紙を配る。</li> <li>絵を配りながら「何の絵かな、よく見てね」と発音する。</li> <li>一人一人に質問し、答えを求めながら発音させよう。</li> <li>絵の葉を指しながら「ここはなんですか」と正しい発音で言いながら名前を言う。</li> <li>「菜」が多いことに気付く。</li> <li>「こまつな」「ほうれんそう」と正しく発音しながら発音させよう。</li> <li>絵を見ながら「菜」であることを暗示する。</li> <li>7-グループの準備</li> <li>すらすら読む</li> <li>文章と絵をマッチングさせよう。</li> <li>文章と絵の単語文をマッチングさせよう。</li> <li>一人一人にカードを渡しながら個々に読む。</li> </ul>
展開	25	<p>絵を見て問いに答える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「何の野菜でしょう」</li> <li>「ここはなんですか」</li> <li>「菜」とあるところがあいていようか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三つの絵を見て答える。</li> <li>白菜の絵であることを確認し、食べていることを確認する。</li> <li>大まかでも重ねあっていることにも注意する。</li> <li>「菜」が多いことに気付く。</li> <li>「こまつな」「ほうれんそう」であることを確認すること。</li> <li>「菜」であることを予想する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はくさい」と正しく発音しながら名前を言う。</li> <li>「ここはなんですか」と正しく発音しながら名前を言う。</li> <li>「菜」とあることを知る。</li> <li>「菜」が多いことに気付く。</li> <li>「こまつな」「ほうれんそう」と正しい発音で言いながら野菜の胸心を持つ。</li> <li>「菜」であることを予想する。</li> <li>「はくさい」「こまつな」「ほうれんそう」等の単語文を読む。</li> <li>意味が分かるように読む。</li> <li>食べているのは「菜」であることを確認し読み取る。</li> <li>文を目で追いながら聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はくさい」と正しく発音しながら名前を言う。</li> <li>「ここはなんですか」と正しく発音しながら名前を言う。</li> <li>「菜」とあることを知る。</li> <li>「菜」が多いことに気付く。</li> <li>「こまつな」「ほうれんそう」と正しい発音で言いながら野菜の胸心を持つ。</li> <li>「菜」であることを予想する。</li> <li>「はくさい」「こまつな」「ほうれんそう」等の単語文を読む。</li> <li>意味が分かるように読む。</li> <li>食べているのは「菜」であることを確認し読み取る。</li> <li>文を目で追いながら聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の絵を配りながらカードを配る。</li> <li>目当てをさしかり持たすように個々に紙を配る。</li> <li>絵を配りながら「何の絵かな、よく見てね」と発音する。</li> <li>一人一人に質問し、答えを求めながら発音させよう。</li> <li>絵の葉を指しながら「ここはなんですか」と正しい発音で言いながら名前を言う。</li> <li>「菜」が多いことに気付く。</li> <li>「こまつな」「ほうれんそう」と正しく発音しながら発音させよう。</li> <li>絵を見ながら「菜」であることを暗示する。</li> <li>7-グループの準備</li> <li>すらすら読む</li> <li>文章と絵をマッチングさせよう。</li> <li>文章と絵の単語文をマッチングさせよう。</li> <li>一人一人にカードを渡しながら個々に読む。</li> </ul>	
まとめ	10	<p>どんなところを食べているのか話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「はくさい」「菜」を食べていることを知る。</li> <li>「こまつな」や「ほうれんそう」なども食べていることを知る。</li> <li>カードに書かれた野菜の絵をカードをマッチングさせたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はくさい」は、葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「こまつな」や「ほうれんそう」も葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「はくさい」は、葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「菜」を食べていることを確認し話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はくさい」は、葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「こまつな」や「ほうれんそう」も葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「はくさい」は、葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「菜」を食べていることを確認し話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はくさい」は、葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「こまつな」や「ほうれんそう」も葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「はくさい」は、葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「菜」を食べていることを確認し話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はくさい」は、葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「こまつな」や「ほうれんそう」も葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「はくさい」は、葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「菜」を食べていることを確認し話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「はくさい」は、葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「こまつな」や「ほうれんそう」も葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「はくさい」は、葉が大きいことを話し合う。</li> <li>「菜」を食べていることを確認し話し合う。</li> </ul>
予告	5	<p>次時への期待をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと知りたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと知りたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと知りたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと知りたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと知りたい</li> </ul>

展開 2

流れ	時間	学習活動	学習				容	教材・教員・教師の配役
			C	E	F	G		
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やおやさん」の歌をうたう。</li> <li>・白菜についての復習をする。</li> <li>・大きな葉、小さな葉、かさねあわす、意味が分かるように文を読もう。</li> <li>・「何を野菜に見ても、何の野菜でも、ほうれんそうやれんそうの葉の作りはどのようになっているか、ほうれんそうやれんそうはどんなところを食べるの？」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持っているカードの名前を言う。</li> <li>・大きな葉、小さな葉の対比、かさねあわすについての再確認、意味が分かるように文を読もう。</li> <li>・「ほうれんそう」「れんそう」と答える。</li> <li>・白菜と同じように文を読ませる。</li> <li>・はくさいと同じように「は」食べていることに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持っているカードの名前を言う。</li> <li>・大きな葉、小さな葉の対比、かさねあわすについての再確認、単語文を読もう。</li> <li>・「ほうれんそう」「れんそう」と答える。</li> <li>・葉が多いことに気づく。</li> <li>・葉を食べていることに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持っているカードの名前を言う。</li> <li>・「かさねあわす」が言える。</li> <li>・文字と文字のマッチングをしよう。</li> <li>・「ほうれんそう」「れんそう」と言う。</li> <li>・「葉が、はい、あります」と答える。</li> <li>・「葉を食べています」と正しい発音で言う。</li> <li>・他の人が読むのを聞く。</li> <li>・じっと聞く。</li> <li>・「は」や「ま」の文字を語中や語尾の頭の中から探す。</li> <li>・「はくさいは葉を食べる」「れんそうもはを食べる」と言う。</li> <li>・文字探しをもっとしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○絵カード・白菜(実物)</li> <li>○野菜の絵カードを配りながら歌わす。(3回は繰り返す。カードを渡しながら)</li> <li>○実物で動作かしながら</li> <li>・目当てをしっかりと持たすように個々に葉を配る。</li> <li>○実物のほうれんそうとれんそう</li> <li>・一人一人に答えを求める。発音にも気を配る。</li> <li>・はくさいと同じようにになっていることに気づかせる。</li> <li>・白菜と同じように葉を食べることに気づかせる。</li> <li>・一文節毎に区切って読ませる。</li> <li>・継続をする。</li> <li>○文節の短冊カード</li> <li>○ワークシート(はくさいをへしている)</li> <li>○(はくさいははくさいをたべる)の短文カードと単語カード</li> <li>○語頭・語中・語尾にはを含まない単語シート</li> <li>○個々の活動に開けをもちながらワークがスムーズにいくように手助けする。</li> <li>・はくさいやほうれんそう、れんそうは全部葉を食べていることを確認する。</li> <li>・出来たことに対し個々を褒めてやり、もっと知りたい、やらない、書きたいの興味や関心意識を持たすようにする。</li> </ul>		
展開	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二段落を読む</li> <li>・すらすら読む</li> <li>・継続を聞く。</li> <li>・ばらばらの文を構成する。</li> <li>・シートの問題を解く。</li> <li>・カードの文を単語で構成する。</li> <li>・単語探しをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほうれんそうは」「はをたべる」を読む。</li> <li>・葉が文字を見ながら聞く。</li> <li>・カードの文を単語で組み立てる。「は」「く」「さ」「い」「る」「は」「る」と並べる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほうれんそう、れんそう、はくさいがみんな葉を食べていることを確認する。</li> <li>・もっと知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほうれんそう、れんそう、はくさいがみんな葉を食べることを確認する。</li> <li>・もっと知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉を食べる野菜の種類について確認する。</li> <li>・ほうれんそう・れんそう・はくさいはどれもはくさいを食べていることを確認する。</li> <li>・次時への期待をする。</li> </ul>		
まとめ	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉を食べる野菜の種類について確認する。</li> <li>・ほうれんそう・れんそう・はくさいはどれもはくさいを食べていることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほうれんそう、れんそう、はくさいがみんな葉を食べることを確認する。</li> <li>・もっと知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほうれんそう、れんそう、はくさいがみんな葉を食べることを確認する。</li> <li>・もっと知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉を食べる野菜の種類について確認する。</li> <li>・ほうれんそう・れんそう・はくさいはどれもはくさいを食べていることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉を食べる野菜の種類について確認する。</li> <li>・ほうれんそう・れんそう・はくさいはどれもはくさいを食べていることを確認する。</li> </ul>		
予告	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時への期待をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉を食べる野菜の種類について確認する。</li> <li>・ほうれんそう・れんそう・はくさいはどれもはくさいを食べていることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉を食べる野菜の種類について確認する。</li> <li>・ほうれんそう・れんそう・はくさいはどれもはくさいを食べていることを確認する。</li> </ul>		

## 7. 実践の結果と考察

### (1) 全体活動から

- 「やおやさん」の歌で、7人が野菜の名前を言ったり、楽しそうに絵カードの提示をしたりしていた。
- ゲームも楽しそうにやっていた。
- 2時に「はくさい」や「こまつな」などの実物を提示しなかったため、絵からは分かりにくく迷っていた。その反省をうけて、3時には実物を持ってきて提示したら、スムーズに理解させることができた。小松菜の実物が探せなかったため「れたす」に変更した。

### (2) 個々の活動から

- A児に「ま」の字を迷路の中から探す教材を与えたら、「ま」の文字を無視して迷路遊びをしていた。3時には、教材をかえて語尾、語中、語頭の中から「ま」を探す教材を与えたら、何とか関心を持って探していた。
- B児は「は」と「ま」の字を迷路や語頭、語中、語尾の中から探す教材を与え作業させたら、「は」は自分の名前の中に含まれているので、定着していてスムーズに出来た。「ま」は2時には目茶苦茶に○を付けていたが、3時には関心を示していた。
- D児には、文字と絵のマッチングをさせるために文字カードと絵カードの教具を与えてさせたら、誰かが付いていると出来たが、一人でさせたら目茶苦茶にやっていた。依頼心が強く、何事も一人でやろうとしないところからきたものと反省した。それは徐々に育むことにして、3時には「は」「く」「さ」「い」の単音カードを与え、「は、く、さ、い」と並べる作業をさせたら、「は、さ、く、い」と並べていた。読ませたら「はくさい」と文字を無視して読んでいた。一対一でさせるとちゃんと出来た。マンツーマンでさせると単音並べを喜んでやった。その時、B児がちょっかいを出して「は」の文字を取ろうとしてけんかになった。
- C児は2時にはパニックを起こし、学習どころではなかった。それは、彼の苦手とする話し合い学習をしつこくやったせいでもあった。又、B児にはワークシートを与えてあったので、シート教材のない彼がB児のシートを奪おうとして、けんかになった。シート教材を話し合い学習が済んでからと思っていたが、なかなかはかどらずにいた結果であった。それで3時には教材をかえて作業教材のワークシートを与えてさせたら、しつこく聞きながらやった。交流学习で「へちま」を取って来てあったので、その「へちま」も早速教材に使って学習させたら楽しそうにやっていた。又、自分が取って来た「へちま」を得意そうに見せびらかしてもいた。
- E、F児は読むこともスラスラ読めて理解もしたようであるが、文字を書く時、筆順が目茶苦茶であった。筆順指導の教材・教具を使って指導する必要性を痛感した。それは、個別学習の時にセッティングすることにした。
- G児は2時は風邪で休んでいたため参加しなかったが、3時には実物の提示もあったので、野菜についての理解がスムーズに出来、文字もある程度読めた。

### (3) 評価及び反省

- 児童個々の能力に応じた教材・教具が準備されていてよかった。

- 7人の個々に応じた教材・教具を準備して取り組むことはとても大変だが、何とかして興味関心を育てていこうとする意欲と雰囲気の中で、継続して取り組むことの大切さを痛感した。
- 絵より実物を提示し、実物を示して文と絡めながら説明したり、言葉の指導をしたら効果が上がった。
- A児には、文字の学習以前の課題も取り入れながら進めていく必要がある。
- 2時の学習内容が多く、教材・教具の与え方につまづきがあった。

## 8. 授業風景



単音カードで遊ぶ



文字と絵のマッチング



絵の名前を単音で綴る



文字のペグボード遊び



実物での説明



絵を見ながら「やさい」の名前を言う

## V まとめと今後の課題

### 1. 研究のまとめ

文字学習に辿り着くまでの課題学習が、文字習得のための段階指導と捉えて、あらゆる生活経験の中で生き生きと学習させるための教材・教具をセッティングさせることが、重要な役割を果たすものである。教師の教材作りに際しては、子どもたちが何に対して興味を持ち、何で共感し体験できるかを観察する姿勢が大切である。一人一人の子どもの育ち方や環境が違えばものの捉え方や言葉の表現の仕方、文字に対する興味の示し方なども異なってくる。教師は常に子どもと向かい合い、見つめ合い、うなずき合う愛情を持って接する行為の中で、子どもを育むことの大切さを学びとった。

### 2. 研究の成果

- (1) 子ども一人一人の能力にあった教材・教具を活用すると、子ども自ら試行錯誤する経験が広められた。
- (2) 子どもの生活経験に応じた教材・教具を選択し、活用することで教師と子ども、子どもと子どもの中で共感するものが生じた。
- (3) 教材・教具を媒介として言葉が広がり、文字に対する興味・関心がでた。
- (4) 絵カードや文字カードを遊びの中に取り入れて、カルタ取りをしたり、けんかして奪い合ったりする中で自分の感情をもろに出し合い、コミュニケーション作りに役立った。
- (5) 年間計画に教材・教具を位置づけた。

### 3. 今後の課題

- (1) 大雑把な年間計画に位置づけた教材・教具をきめ細かに綿密な計画を立てて実践する。
- (2) すぐ取り出せる教材・教具の整理の仕方の工夫をする。
- (3) 書く力を高めていくための追求をする。
- (4) 新しい教材・教具の開発をする。

### 4. 終わりに

子どもたち一人一人に目を向け、学習の中で「個々の能力を伸ばす」と言うことで、ひらがな読み習得学習内容と教材・教具との関わりの研究を始めたわけだが、子どもたちは文字学習以前の学習内容以上に、心理的な働きを表情や体で表現するので、教師がその様な状態を如何に汲み取るかのハートの表現であることを実感した。又、常に子どもに受け入れられる柔軟な感性と豊かな感情表現が要求されていることも会得した。

研究所での4か月間は、研究所員、市教育委員会・指導主事、県立教育センターの指導主事、学校職員、研究員、そして私たちに足跡を残してくれた先輩教師、友人達からの御指導・御助言を戴く機会となり、本当に充実した日々を送ることができました。心から感謝申し上げます。

< 主な参考文献 >

- ビッキM, ジョンソン共著「発達の遅れた子どものステップ指導」学苑社
- 宮本茂雄編著「授業」「教育過程」学苑社
- 坂本龍生著「障害児を育てる感覚統合法」日本文化科学社
- 近藤原理共著「ちえ遅れの子どもの国語」学研
- 寺山千代子編著「国語指導12か月」学研
- 角張憲正監修「自閉児の言語開発」学研
- 阿部秀夫著「だっ子法入門」学研
- 宮崎直男編「特殊学級の授業楽しい50のアイデア」明治図書
- フロスティック著「視知覚能力促進法」「視知覚学習ブック」（初級・中級）日本文化科学
- 田中研究所編「言語発達診断検査」の説明書 田研出版

< 資料 >

どんな ところを たべますか

やおやさんには、いろいろな やさいが あります。わたしたちは、やさいの  
どんなところを たべて いるのでしょうか。

はくさいは、おおきな はを なんまいも なんまいも かさねあわせて います。  
わたしたちが たべているのは、はくさいの はの ところです。ほうれんそうや  
こまつななども、はを たべる やさいです。

なすは、むらさきいろの はなを さかせます。やがて はなの もとの ところ  
が ふくらんで みに なります。

わたしたちは、おおきく なった みの ところを たべて いるのです。トマトや  
きゅうりなども、みを たべる やさいです。

はや みでは なく、ねの ところを たべる やさいが あります。さつまいも  
は、じめんの うえに つるを はわせて、はを ひろげます。じめんの したの  
ねの いちぶが、だんだん ふとく なります。わたしたちは、ふとくになった ねの  
ところを たべて いるのです。だいこん、にんじん、ごぼうなども、ねを たべる  
やさいです。